

知っておきたい今どきの

「学校推薦型選抜・総合型選抜」のキホン



へい、
すこいね。

会社の部長の娘さん、
推薦で大学が決まったん
だつてさ。

久美子(43)
陽菜と翔太の母

誠(46)
陽菜(中2)と翔太(小5)の父



うーん。
よくわかんないけど、
総合的な推薦じゃない？

何？
総合ナンチャラって？



去年、大学に入った
本部長の息子さんも
推薦だったよな。

そういえば、
鈴木さんとお兄ちゃんは、
総合……ナンチャラで、
大学が決まったつて。



……確かに。

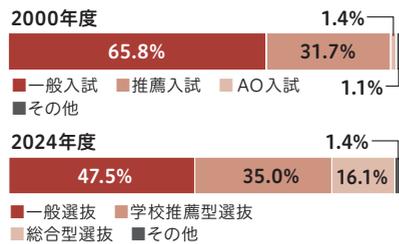
なんか、
推薦で入っている子、
多くない？

保護者の皆さんの頃とは 大学入試が大きく変わっています

保護者の皆さんが大学を受験した頃は、いわゆる「一般入試(2021年度入試から「一般選抜」に名称変更)を経て入学する人がほとんど。その他は、推薦入試を利用したという人がごくわずかにいる——という程度でした。

しかし、1990年に慶應義塾大学がAO入試を導入。その後「知識偏重」への批判の高まりや、少子化が進行する中で学生数を確保したいという大学側の思惑もあり、AO入試や推薦入試など「一般入試」以外の枠組みを増やす大学が増加。今どきの大学生は、入学者のうち、半数以上が「一般選抜以外で入学している」という状況なのです。

一般選抜とそれ以外の選抜方法を利用した学生の割合の比較—2000年と2024年—



「一般選抜」以外の入試というと、以前は推薦入試とAO入試がありましたが、現在では若干の制度的な変更が加えられたうえで、「学校推薦型選抜」と「総合型選抜」に整理されています(これらの詳細は後述します)。

一方、「一般選抜」も多様化しています。例えば「共通テスト利用入試」。大学入学共通テストの受験は必須ですが、共通テストに加えて大学独自の試験を受ける場合もあれば、共通テストの成績だけで合否が決まる場合もあります。

また、同じ学部・学科でも、試験科目や配点、試験日程などが異なる複数の選抜を設定し、複数回の受験を可能にしている大学もあります。

大学入試の制度は多種多様になり、従来とは比較にならないほど複雑化しています。

A

本当です。私立大学では半分以上となっています。

Q

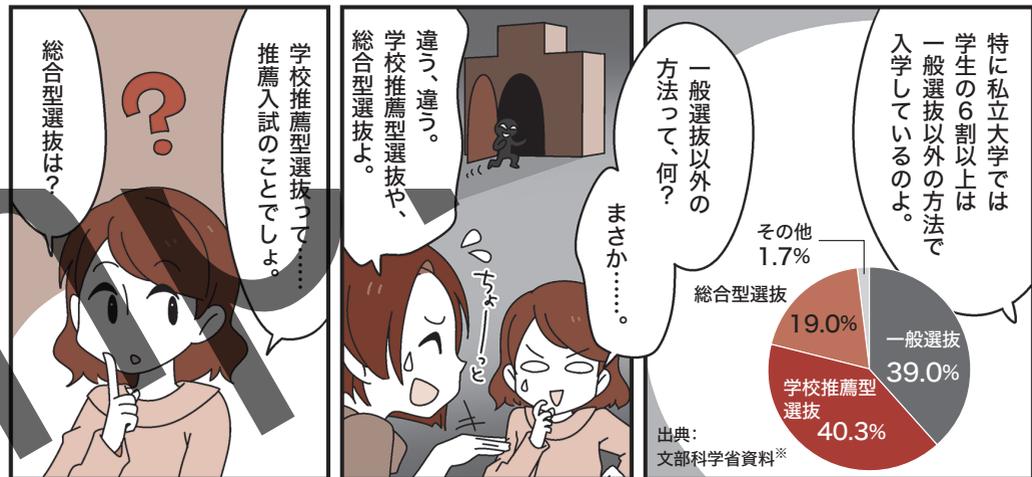
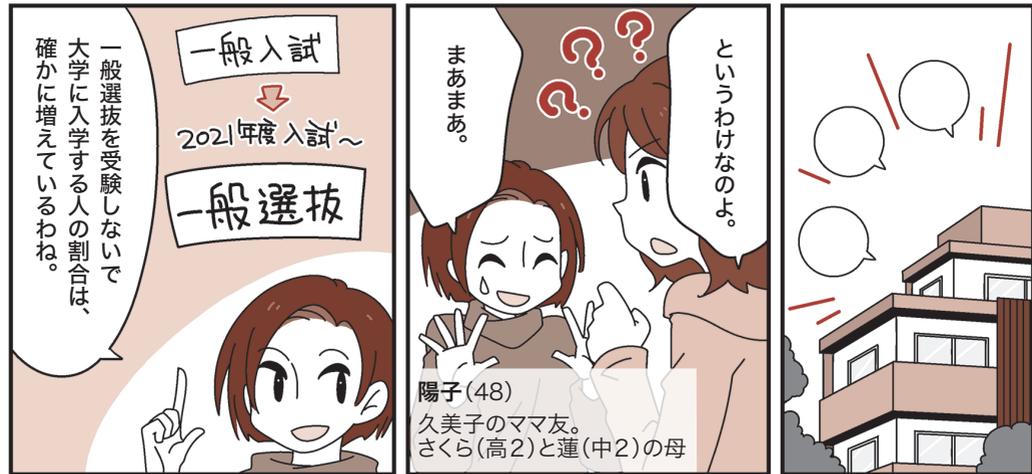
「一般入試」を受験して大学に入学する学生が減っているって本当？

A

今どきの大学入試制度は複雑化を極めていきます。

Q

そう言えば最近、共通テスト利用とか、英語資格・検定試験利用とか、いろいろあるのよね？



● 昔は、「早く推薦で決めたほうが楽」っていうイメージだったけど。

● 今は、そうじゃないんです。